

地域ニーズを先取りし事業化



無人ヘリ防除

関東電設株式会社 関東 義則

関東電設株式会社は昭和四十二年に設立し、電力事業の送電線建設工事を主に発展してきた企業である。現在の営業品目は、建設業として電気工事・電気通信工事・土木・建築工事などと幅広く、他に、スカイパスコ事業部とエコ事業部がある。前者は産業無人ヘリコプターの事業部で、後者は、太陽光発電システム販売、電気量の節電器販売や節水部品（スーパーフローシステム）などを扱う事業部である。ここでは、まず、スカイパスコ事業部から紹介したい。

スカイパスコ事業部は平成五年に設立され、現在スタッフは七名、全員がオペレーターの指導員の資格を持っている。ヘリコプター九機を所有し、農薬散布事業、空撮事業、延線事業、スクール事業（無人ヘリ資格取得）、PX事業（無人ヘリ事業コンサル）の五事業を柱とし営んでいる。設立当初は建設業も順調で周りからは「何故ヘリコプターを使って遊んでいるんだ！」という冷ややかな見方もされた。しかし、今になって当社のスカイパス

コ事業部は東北地域では一番の散布実績があり、電力事業のロープ延線では日本一を自負できるところまで発展している。

平成三年四月、農林水産省農蚕園芸局長から「無人ヘリコプター利用技術指導指針」が通達され、当社は平成五年から水稻の病害虫防除作業に参入することとなった。無人ヘリコプターによる防除のメリットは、低空飛行（三メートル四メートル）によりドリフト（薬剤の流亡・飛散）が少ない、適期防除による効果が大きい、高精度高能率防除が可能、小区画の圃場や中山間地での防除が可能、直播き、液剤粒剤、滴下と多様な対応が可能、などである。

これからは、農業従事者の兼業化、高齢化などにより地上防除の労働力不足が深刻になると予想されることから、省力・低コスト化・生産性の向上を図る「空飛ぶ農業機械」の新しい農法の出現は画期的であると思えた。また、農地と住宅地の混在化が進行し環境問題が叫ばれていることから、今後需要が伸びると思つた。これらがスカイパスコ事業設立の

原点である。

ここで、一日の稼働時間が一番長い農薬散布の作業内容を見てみよう。農薬散布事業は四月末から、米の直播きが始まり、水稻防除は九月中旬の大豆防除まで休む間もなく、ほぼ毎日ヘリと圃場との格闘である。作業時間は早朝五時開始で昼十二時をメドに五時間から六時間の作業である。散布は通常二人で行われ、オペレーターがラジコンヘリを飛行させ、もう一人がナビゲート（圃場での指示、危険箇所連絡）する。電線やら民家やらその他障害物などのある中、進行方向の決まっていないヘリコプターを意のままに操作し、薬剤を適量散布する。傍らで見ている人は「面白いことをしているな」と思うであろう。ところが、ヘリコプターというものは、思惑どおりに動かないものである。簡単に説明すれば、空気中にフワフワと浮遊しているモノである。どこに行くのか分からない物体の方向を修正し、前進したり、後退したり、左右に移動したりして初めて直線的、曲線的な動き

Value Sight 無人ヘリ防除



無人ヘリによる低空での防除作業

になる。オペレーターは常にヘリコプターに視線を注ぎ、一秒ごとに変化するさまざまな口けシヨンの中で気を配った作業を長時間続けなければならず、集中力と孤独に打ち勝つ気力と体力が要求される。傍らで見ている様子よりは地味で気苦労の多い作業である。

赤塚スカイバスコ事業部長は、次のように語る。「散布事業に際し、作業そのものの収益以上に、病害虫の駆除に貢献できたことや、今の農業分野における生産者の高齢化、後継者不足などの諸問題がある中、当事業部が手伝いできたことが何よりの喜びである。五事業のどれもヘリコプターの特性を最大限に生かした作業のため、需要は高いものの、精



ハイブリッドシステム時計塔

神的なプレッシャーは大きな負担となって返ってくる。しかし、顧客のニーズにこたえ、任務を遂行できた満足感と喜びが、新たなチャレンジ心を湧き立たせてくれる。これからは長年培ってきたノウハウを他企業に教えることにより日本の根幹とも言える農業分野や社会に貢献していきたい。

スカイバスコ事業を立ち上げる時は、事業部スタッフ全員が私と一緒に生み育てる苦労を共にした。ヘリを墜落させてしまったり、トラブルがいろいろあったが、紆余曲折を経て組織がしつかりし、採算が合い、収益を出す事が出来るようになった。

企業の本業という考えがあるが、私は、「今までの本業はこれからの本業にあらず。収益が上がるのがすべて本業である」と考えている。業界という狭い範疇ではなく、時代の流れを読み、これから何が望まれているのか？お客様は何を求めているのか？絶えず考えなければならぬ。そしてこうあるべきだと思ったら即実行することではないだろうか。

今、第二のスカイバスコ事業部を目指してエコ事業部が頑張っている。エコ事業部のコンセプトは、「家計簿の応援団・地球にやさしいサービス提供」である。これからは、ますます不可分所得が下がる世の中になると予想される中で、私も皆さんに家計簿（事務所経費）の支出を抑えるシステムをご提案させていたいただきたい。それは、太陽光発電小型風力発電システム 省エネルギーシステム（電力量を低減する節電システム） 総合節水システム（水道の水を適正にコントロール） 排気ガス浄化システム（車やボイラーの排気ガスを浄化）などである。

これらは新商品であるがゆえに、なかなか理解してもらえないことが多いが、今後の社会情勢の中では必ず取り入れてもらえると感じている。ともあれ、何が起きるか分からない時代である。当社は、お客様のニーズにこたえるため、建設業という職域だけでなく幅広い分野に目を向け、何でも事業はサービスであるという心を持ち、勇猛果敢にチャレンジし、明るく楽しく前向きに進む企業でありたいと思っている。

関東 義則

関東電設株式会社 代表取締役。
1957年天童市生まれ。
天童市大字干布436。
日本大学理工学部土木工学科卒業。
株式会社ジャワネット（IT関連事業）
代表取締役。株式会社日東物産（建設資機材卸）専務取締役。株式会社さくらんぼテレビジョン取締役。
URL : kantou-densetu.co.jp
E-mail : kantou@jvnet.or.jp